資料　2

第４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

開催：平成 19 年 9 月 15 日(土)、16 日(日)

会場：広島修道大学

第４分科会報告

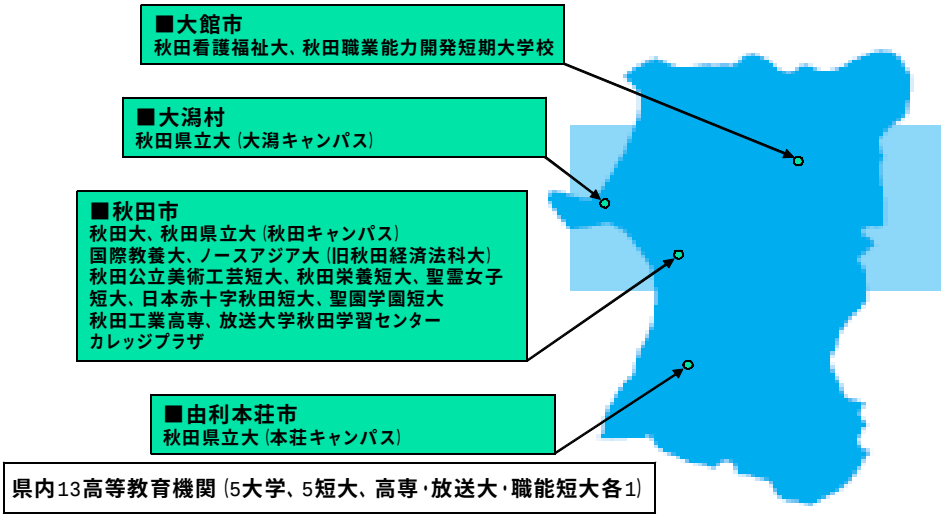
多様な「学び」のニーズへの対応を目指して
～大学コンソーシアムあきたの取組～

大学コンソーシアムあきた地域貢献部会長
秋田公立美術工芸短期大学教授　平野庫太郎

１　大学コンソーシアムあきたについて

（１）秋田県内の大学等設置状況

・　平成 19 年度現在で 13 高等教育機関（5 大学、5 短大、高専･放送大･職能短大各 1）が設置されており、その配置は秋田市に集中している。



（２）大学コンソーシアムあきたの概要

①　設立の経緯

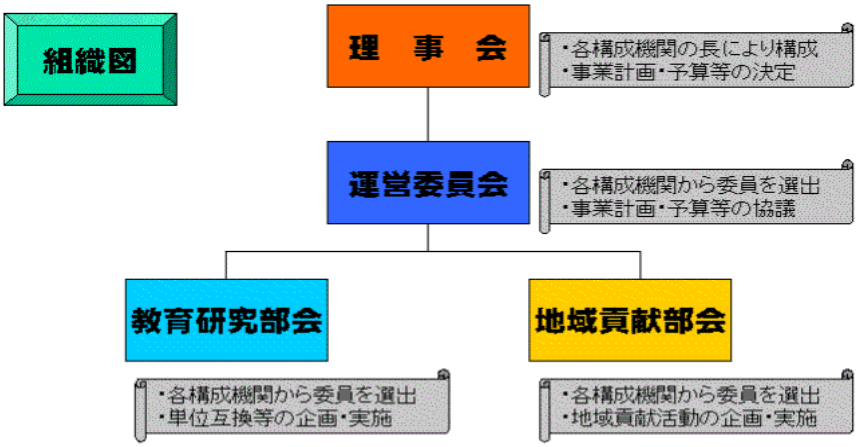
・　平成 14 年 7 月、秋田県内高等教育機関により秋田県高等教育機関連携推進会議（事務局：秋田県）発足、大学間連携事業の推進体制等に関する協議を開始。単位互換制度の拡大や高大連携の開始に順次着手した。

・　平成 17 年 3 月、同会議の議論を踏まえ、新たに大学間連携組織「大学コンソーシアムあきた」を設立（平成 19 年度現在、上記 13 高等教育機関が加盟）した。

・　大学コンソーシアムあきたの目的は、県内高等教育機関による大学間連携及び地域貢献の推進であり、大学の連携・交流による教育研究等の活性化・知的資源の地域社会への積極的な還元を図ることとしている。

②　運営組織

・　大学コンソーシアムあきたは任意団体として運営、構成機関からの負担金及び県補助金により事業活動を実施している（事業費：平成 19 年度予算 5,500 千円）。
・　組織は、意思決定機関として理事会を置き、運営委員会が事業計画や予算等を協議、２部会（教育研究部会、地域貢献部会）が各事業の企画・実施を担当する体制としている。



③　カレッジプラザ

・　平成 17 年４月、県内高等教育機関の活動拠点施設として秋田県が「カレッジプラザ」を開設。ＪＲ秋田駅から徒歩約５分の利便性の高い地区に立地し、県立秋田明徳館高校や秋田県福祉相談センターが入居する教育福祉複合ビルの２階部分１フロアを開放し、大学コンソーシアムあきたや県内大学の活動に活用されている。

④　主な活動

■大学間連携（担当：教育研究部会）

・　各大学の連携・交流による教育研究等の活性化に関する事業。単位互換や職員研修を実施している。

■地域貢献（担当：地域貢献部会）

・　各大学の参加・連携による地域貢献活動の推進に関する事業。連携公開講座や高大連携授業、社会人講座を実施している。

2　社会人教育に関する事業活動について

（1）社会人教育（生涯学習）の位置付け

・　地域貢献は教育・研究に並ぶ大学の使命の一つであり、地域社会への幅広い「学び」の機会の提供は、固有の教育研究資源を持つ大学による有効な地域貢献活動。
・　既存の生涯学習サービス（教育委員会などの生涯学習事業や民間の各種教育サービス事業）との差別化を図り、特に地域の大学が連携してこそ発揮できる独自性を重視した事業展開を目指している（職業人のスキルアップなどの実学教育等）。

（2）関連する主な事業

①連携公開講座

・　秋田の課題をテーマに、各大学の研究者がそれぞれの分野・視点から分析・提言を行うリレー方式の公開講座。各大学の特色を活かした政策提言型・課題解決型の講座を目指している。

②社会人講座

・　社会人を対象に、教養から実学まで幅広い学びの機会を提供する企画講座（各科目３回以上の講義で構成)。職業人が「仕事帰りに学べる講座」を目指している（受講料有り)。

（３）事業実績

①連携公開講座

■平成 17 年度

・　**テーマ①「観光立県を目指して」（４回シリーズ）**

参加大学：秋田大学、国際教養大学、秋田経済法科大学、秋田公立美術工芸短大

講 座 例：「今なぜ観光立県か」「秋田の観光・地域振興の将来」

受講者数：のべ 101 人

・　**テーマ②「景観・美観の再生と創造－美しい秋田市づくりを目指して－」（６回シリーズ）**

参加大学：秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、秋田経済法科大学、秋田公立美術工芸短大、秋田工業高専

講 座 例：「美しいまちって」「市民参加による景観まちづくり」

受講者数：のべ 183 人

・　**テーマ③「高齢化対策：明るく、しなやかに、したたかに」（４回シリーズ）**

参加大学：秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、秋田経済法科大学、秋田看護福祉大学、秋田栄養短大、日本赤十字秋田短大、聖園学園短大

講 座 例：「人生後半のエッセンスとしてのボランティア」「住環境と脳卒中」

受講者数：のべ 364 人

■平成 18 年度

・　**テーマ①「観光立県を目指して」（５回シリーズ）**

参加大学：秋田大学、国際教養大学、国際教養大学、秋田公立美術工芸短大

講 座 例：「グリーン・ツーリズムの可能性」「観光資源としての秋田スギ」

受講者数：のべ 149 人

・　**テーマ②「高齢化対策：明るく、しなやかに、したたかに」（５回シリーズ）**

参加大学：秋田大学、秋田県立大学、秋田経済法科大学、秋田看護福祉大学
秋田公立美術工芸短大、秋田栄養短大

講 座 例：「シルバーエイジの食事戦略」「高齢者の離婚増加と年金分割」

受講者数：のべ 238 人

②社会人講座

■平成 17 年度　　※ 同年度は県予算による委託事業として実施

・　開講科目 11 講座、受講登録者数 135 人

講 座 例：「商品開発論」「21 世紀の医療を考える」「ウィーンの芸術と文化」

■平成 18 年度

・　開講科目 13 講座、受講登録者数 261 人

講 座 例：「アメリカの音楽」「若いお父さんのための生涯発達心理学入門」

「“ ネイティブに近づく ” 英語講座」

（４）平成 19 年度事業計画

①連携公開講座

・テーマ①「秋田元気力講座」

概　要：地域経済・産業の振興やまちづくりなどの視点から地域を活性化するための提言

講座例：「人口減少に負けない秋田の元気なまちづくり」

「地産地消で地域を元気に！」

・テーマ②「明るくしなやかシルバーライフ」

概　要：福祉・医療・文化・法律など多様な視点から高齢化社会を前向きに生きるための知恵

講座例：「高齢者と園芸・農作業～園芸療法について～」

「すこやかにさわやかに高齢者の支援と財産管理」

②社会人講座

・　実学系（職業や社会活動のスキル）、教養系（文化・芸術・歴史など）、時事系（社会・経済・科学技術の現代事情など）の各種講座を 10 ～ 15 科目程度開講。

講座例：「経営とデザイン」「シルクロードの仏教美術」

③サイエンスプラザ（新規事業）

・　大学研究者と市民が科学をテーマに気軽に語り合うイベント（「サイエンスカフェ」がモデル）

（５）現状の評価と課題

・　参加講師はいずれも多大の時間や労力を講座の企画・工夫や資料作成に費やしており、受講者の参加意欲・満足度も高い（例えば、平成 18 年度社会人講座の受講者アンケートでは、講義について 83.9%が「よかった」（51.6%）または「まずまずよかった」（32.3%）と回答している）。

・　今後の課題は、①各大学の教育研究資源を活かした質の高い講座提供を実現していくための各大学等関係者の企画力の充実・強化、②講座の質の高さに比べ受講者数が少ないため、より一層のニーズの掘り起こしや効果的なＰＲ、等である。

（６）今後の取組の方向性

①より一層の独自性・特色づくり

・　各大学の個性・強みをより地域にＰＲしていくための企画

・　人材育成につながる実学分野（職業・社会活動等）の講座の充実

②より具体的な地域貢献活動への発展

・　学習サービスの提供にとどまらず、地域振興への取組につながるような産業界や市民団体など地域社会のネットワーク形成・地域連携活動に向けた「場」への展開を図る